

秦野の今と未来を考える

第二号

発行：秦野市民の会 編集：藤田武士（工学博士） 詳細：裏面

「時を戻す議会」

人口減少・予算不足などから、自治体の半数近くが、「老朽化が進むインフラは廃止せざるを得ない」という判断を下しています [1]。秦野市は、どうでしょうか？ [1] NHK 政治マガジン インフラ特集記事（2023年3月8日）

秦野市議会の判断（[2]及び[3]の要旨）

「インフラ事業は、次世代の市民にとって非常に有益なので、力強く推進する。」

進行中（予定）のインフラ事業例：

- ①矢坪沢・矢坪沢周辺の整備 ②土地区画整理（今泉） ③土地区画整理（戸川・西大竹）
- ④伊勢原西IC～秦野中井ICの全線事業化 ⑤県道705号線の拡幅 ⑥etc.。

注1）市長は、地元業者を、工事の請負先とすることを基本としている [3]。

注2）インフラ建設後の維持管理・解体費用は、建設費用の4~5 倍になる [4]。

[2] 「戸川土地区画整理事業を強力に推進することを求める決議」の可決

[3] 第1回定例会会議録（R2~R4）における市長・議会多数派⁺の演説など

⁺ 是非、ご自身で、議会多数派がどういう議員で構成されているかお調べください。

[4] 新潟県上越市創造行政研究所Newsletter, Mar.2004 vol.12

このような秦野がイヤならば、

「市民が税金の使い道を決める政治*」

秦野でも実現させましょう！

* 福島県・会津若松市（2008年）、千葉県・我孫子市（2005年）、etc

作成日：2023/05/16